

十和田市の子どもたちの学力と生活

～令和6年度全国学力・学習状況調査の結果概要から～

令和6年8月20日
十和田市教育委員会

1 調査の目的

本調査は、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることや教育指導や学習状況の改善・充実等を目的としています。

本市では、市の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証することで、施策の見直しと改善を図るとともに、各学校が、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために本調査に参加しています。

2 調査の対象及び内容

(1) 対象学年と実施した学校数・児童生徒数（当該学年の全児童生徒対象）

	市立学校数	実施した学校数	実施した児童生徒数
小学校第6学年	14校	14校	436人
中学校第3学年	8校	8校	364人

(2) 児童生徒に関する調査の内容

① 教科に関する調査

ア 国語、算数・数学

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関する内容

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容

調査問題は、上記(ア)と(イ)を一体的に問う内容となっている。

② 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容

3 調査日

① 令和6年4月18日（木）

〈小学校〉国語・算数 〈中学校〉国語・数学

② 令和6年4月10日（水）～4月30日（火）

児童生徒質問調査

4 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学について、本市の状況をお知らせします。

なお、文章内の表記については、本市の数値を全国と県の平均正答率と比較した時に、0～±1.0%未満では「同程度」、±1.0%以上では「上回っています」「下回っています」などの表現を用いています。

① 国語

ア 小学校

全国平均及び県平均を上回っています。

設問別にみると、以下の設問で全国平均や県平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

【県平均を下回る設問の趣旨】

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。

イ 中学校

全国平均と同程度で、県平均を上回っています。

設問別にみると、以下の設問で全国平均や県平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る出題の趣旨】

- ・短歌の内容について、描写を基に捉えることができる。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる。
- ・文の成分の順序や照応について理解している。

【県平均を下回る設問の趣旨】

- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができる。みちたりた

② 算数・数学

ア 小学校

全国平均及び県平均を上回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る出題の趣旨】

- ・示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。

イ 中学校

全国平均を下回り、県平均と同程度です。

設問別にみると、以下の設問で全国平均及び県平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

- ・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。
- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。
- ・与えられたデータから最頻値を求めることができる。
- ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・筋道を立てて考え、証明することができる。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。
- ・事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる。

【県平均を下回る設問の趣旨】

- ・等式を目的に応じて変形することができる。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査）

児童生徒の主に生活の諸側面についての結果を、全国平均及び県平均と比較しながらお知らせします。参考として令和5年度の状況を（ ）内に示しています。

なお、文章内の表記については、本市の数値を全国と県の平均値及び令和4年度の状況と比較した時に、0～±2.5%未満では「ほぼ同じ」、±2.5%～±5.0%未満では「やや多く」「やや少なく」など、±5.0%以上では「多い」「少ない」などの表現を用いています。

① 朝食

朝食を毎日食べている小学生は全国及び県よりやや多く、中学生は全国及び県とほぼ同じ状況です。令和5年度と比較すると、小学生及び中学生ともにほぼ同じ状況です。

項 目	小学生	中学生
○朝食を毎日食べている。	89.4% (87.4%)	79.3% (80.7%)

② いじめ

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じ状況で、中学生は全国及び県より多い状況です。令和5年度と比較すると、

小学生は少なく、中学生はやや少ない状況です。

項 目	小学生	中学生
○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。(どちらかと言えば当てはまるを含む)	82.6% (87.6%)	84.8% (86.3%)

③ 家庭学習

普段1日当たり1時間以上勉強(学習塾や家庭教師等の時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)している小学生は全国より少なく県よりやや少ない状況で、中学生は全国より少なく県とほぼ同じ状況です。令和4年度と比較すると、小学生が少なく、中学生はほぼ同じ状況です。

項 目	小学生	中学生
○学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強している。	46.3% (61.6%)	54.8% (55.6%)

④ 新聞

新聞を読んでいる(ほぼ毎日、週に1～3回程度、月1～3回程度)小学生及び中学生は全国及び県より多い状況です。令和5年度と比較すると、小学生はやや少なく、中学生は多い状況です。

項 目	小学生	中学生
○月1～3回以上新聞を読んでいる。	42.5% (46.2%)	40.2% (32.6%)

⑤ 地域や社会

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う小学生及び中学生は全国より多く県よりやや多い状況です。令和5年度と比較すると、小学生及び中学生ともに多くなっています。

項 目	小学生	中学生
○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(どちらかと言えば当てはまるを含む)	89.9% (83.8%)	84.1% (69.8%)

⑥ 自分のよさ

自分にはよいところがあると思っている小学生は全国及び県よりやや多く、中学生は全国より多く県よりやや多い状況です。令和5年度と比較すると、小学生はやや少なく、中学生は多い状況です。

項 目	小学生	中学生
○自分にはよいところがあると思っている。(どちらかと言えば思っているを含む)	88.5% (92.1%)	89.5% (83.4%)

⑦ 将来の夢等

将来の夢や目標を持っている小学生は全国より多く県よりやや多い状況で、中学生は全国より多く県とほぼ同じ状況です。令和5年度と比較すると、小学生及び中学生ともほぼ同じ状況です。

人の役に立つ人間になりたいと思っている小学生及び中学生は、全国及び県とほぼ同じ状況です。令和5年度と比較すると、小学校及び中学校ともにほぼ同じ状況です。

項 目	小学生	中学生
-----	-----	-----

○将来の夢や目標を持っている。（どちらかと言えば持っているを含む）	90.8% (89.5%)	74.1% (74.6%)
○人の役に立つ人間になりたいと思う。（どちらかと言えば思うを含む）	96.7% (96.5%)	97.0% (95.5%)

⑧ 授業の理解

国語の授業内容を理解している小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じで、中学生は全国よりやや多く県とほぼ同じ状況です。令和5年度と比較すると、小学生はほぼ同じで、中学生は多い状況です。

算数・数学の授業内容を理解している小学生は全国とほぼ同じで県よりやや少なく、中学生は全国及び県より多い状況です。令和5年度と比較すると、小学生はやや多く、中学生はやや多くなっています。

項 目	小学生	中学生
○国語の授業の内容がよく分かる。（どちらかと言えば分かるを含む）	89.7% (89.2%)	86.8% (81.6%)
○算数・数学の授業の内容がよく分かる。（どちらかと言えば分かるを含む）	81.0% (77.8%)	82.3% (78.6%)

⑨ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思っている小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じで、中学生は全国及び県とほぼ同じ状況です。令和5年度と比較すると、小学生はやや多く、中学生はほぼ同じ状況です。

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思っている小学生は全国よりやや多く県とほぼ同じで、中学生は全国よりやや多く県とほぼ同じ状況です。令和5年度と比較すると、小学生は多く、中学生はやや多くなっています。

項 目	小学生	中学生
○課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。（どちらかと言えば思うを含む）	86.4% (83.4%)	80.1% (81.6%)
○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思う。（どちらかと言えば思うを含む）	90.2% (83.4%)	90.0% (85.1%)

⑩ ICT機器の使用

授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している小学生及び中学生は全国及び県より少ない状況です。令和5年度と比較すると、小学生はほぼ同じで、中学生はやや少なくなっています。

項 目	小学生	中学生
○授業でほぼ毎日PC・タブレットなどのICT機器を使用している。	14.6% (14.5%)	19.6% (22.6%)

5 今後の対応

(1) 教科に関する調査

教科に関する調査について、小学校では、国語及び算数において全国平均及び県平均を上

回る結果になりました。中学校では、国語は全国平均と同程度で県平均を上回り、数学は全国平均を下回り県平均と同程度で、英語は全国平均を下回り県平均と同程度の結果となりました。

これまで、市立各小・中学校においては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための教育活動を継続的に実施してきました。

小学校と中学校の国語及び算数・数学の「知識・技能」と「思考・判断・表現」はいずれも、全体の平均正答率との差は見られませんでした。問題形式の「記述式」の平均正答率が「選択式」や「短答式」に比して上回る結果となりました。日常の授業において、児童生徒が粘り強く課題に取り組んできた証左と考えられます。また、質問紙調査における授業理解に関する結果や主体的・対話的で深い学びの視点における授業改善の結果からも、充実した授業が行われていることもうかがえます。

しかし、小・中学校ともに、全国・県ともに正答率が低く本市の児童生徒においても低くなっている問題や、全国・県に比べて低い正答率となっている問題があり、更なる向上のために、改めて各教科における指導方法の改善が望まれます。

市教育委員会では、特に学力の向上について、他の調査結果（C R T、総合学力調査等）と併せて、実態と課題を明確にし、具体的な指導の手立てやI C Tの効果的な活用法等を学校に提供していくとともに、授業の理解度と学習内容の定着を高めるため、引き続き次の点を重点として取り組んでいきます。

□「授業の充実」に向けて

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 資質・能力を育成する単元の構想
- ・ 個別最適な学びの充実

□「令和のとわだの学び」を基にした実践

- ・ 問いから始める主体的・対話的で深い学びの実現
- ・ W o n d e r f u l なデザインによる単元の構想
- ・ だれひとり取り残さない個別最適な学びの充実

(2) 質問紙調査

児童生徒の生活の諸側面に関する調査では、概ね令和5年度同様に、全国・県の実態とほぼ同じような生活習慣や生活リズムで日々の生活を送っており、自己肯定感や夢・目標をもち学校生活を送っていることがうかがえます。

このことは、市立各小・中学校において、自校の調査結果の分析と考察を的確に行い、文部科学省の報告書や他の調査結果等を参考にしながら、学校での教育活動はもとより、地域・家庭と連携した児童生徒の健やかな成長を育む取組の成果だと思われます。

市教育委員会は、今後も、児童生徒が望ましい生活習慣や生活リズム等を身に付け、夢・希望・志の実現に向け、健やかに成長できることを願い、地域・家庭と連携しながら教育活動の一層の充実に取り組んでいけるよう、学校を支援していきます。